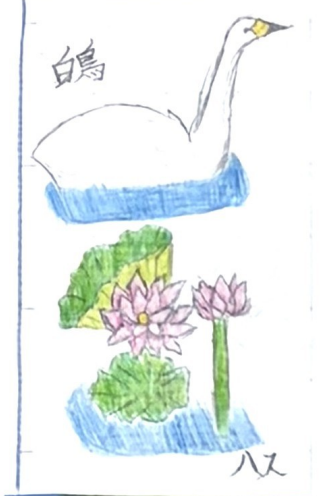
佐潟ハス復活新聞

賀田祐仁
新潟市立赤塚小学校







ハスがなくなった原因

佐潟は、新潟市西区の赤塚にある砂丘湖です。一九九六年、ラムサール条約湿地に登録されました。しかし、今、佐潟は大きな問題を抱えています。それはハスの減少です。以前、佐潟には一面に広がっていましたが、二〇一八年にはハスが消えてしまいました。

専門家によると、ハスがなくなった原因の一つとして特定外来生物が考えられます。ミドリガメとアメリカザリガニが佐潟に放されたとのことです。

もう一つは水質の悪化です。地球温暖化で暑さの上昇により、水中の生態系にも影響を及ぼしているそうです。

ハス復活プロジェクト

これは、カメを捕獲したり地元の小中学校と協力してハスを復活させるプロジェクトです。

八月五日、私は「佐潟へ行こう、ハスの学習と潟舟体験に参加しました。そこで、佐潟と歩む赤塚の会の涌井晴えさんにインタビューをしました。そこで次のことが分かりました。

①カメを捕獲すること。
②赤塚小学校の子どもと協力して八スを育てたり、移植したりすること。
③佐潟の水を抜き、水質をきれいにするということ。

①と②によって、佐潟のハスは一部復活することができました。涌井さんが驚かれていたことは絶植して人としていない場所も復活が進んでいるとのことです。これは、③の水が関わっています。

佐潟の魅力

佐潟には、ハス以外にもたくさんの魅力があります。一つ目は、「冬になるとシベリア等から、二〇〇種以上の鳥類が渡ってくることです。その中でも白鳥は毎年約四〇〇羽ほど飛来してくる佐潟のシンボルです。二つ目は、自然の豊かさです。佐潟には、植物は六五〇種以上、昆虫類は約一〇〇種以上も確認されている自然の宝庫です。こうした自然との共生を感じられることが、大きな魅力となっています。

模型を作ってみて

佐潟周辺には、田畑や家が多くあり落ち着いた環境です。また、鳥たちにとっては田畑は心と体を満たす場所になっています。

私は佐潟の近くに住む一人として、これからも環境を大切にし、佐潟と共にいきたいと思います。



私が通っている学校



未来の自然保護研究所



観察に行った湿地センター


完成間近の佐潟


製作中


未来の佐潟